



平成29年 初秋号



撮影:予防接種センター 大久保 恵

日頃は、名鉄病院に格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。

当院は、名鉄電車の栄生駅直結の立地の良さもあって、名古屋医療圏はもとより尾張中部医療圏や海部医療圏の患者様にも多数ご利用頂いています。昨年度の入院患者様のお住まいは、西区(30%)、中村区(12.9%)などの名古屋市内が51.2%、清須市(23.6%)、あま市(8.3%)、北名古屋市(4.6%)などの名古屋市外が48.8%でした。

また当院は、ここ数年、診療センターや専門外来の開設、新しい医療機器の導入などを進める一方で、救急医療と地域連携に取り組んできました。

昨年度の救急車の受入台数は6,267台で5年前の2倍、紹介患者数は10,376名で5年前の1.5倍となりました。

2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築が進む中、当院は、地域に密着した病院として、これまでこの地域で果たしてきた高度な医療の提供、一般急性期医療の提供、在宅復帰・後方支援のための医療の提供という役割をこれからも果たし続けることで、地域の皆様からより一層信頼される病院を目指してまいります。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



名鉄病院 事務部長
金子 俊彦





院内感染防止対策委員会の活動のご紹介

名鉄病院の全職員が院内感染対策に努めています。

当院へ訪れるすべての方を医療関連感染から守るために以下のような取り組みを行っています。

【院内感染対策ラウンド】

毎週定期的に感染対策チームが院内を巡回し、感染対策の視点から現場確認と指導を行っています。

【サーベイランス(監視活動)】

常に院内で検出される細菌の検出状況を把握し、集団感染に至らないための対策に努めています。

【病院職員への教育活動】

院内感染防止研修を行い、知識向上に努め感染防止対策を実践しています。

【地域連携】

地域における感染対策の向上を目指し、近隣の病院と「相互ラウンド」「カンファレンス」を定期的に実施しています。

抗菌薬の適正使用への取り組み。

近年、抗菌薬が効かない多剤耐性菌感染症が懸念されています。

多剤耐性菌とは、多くの抗菌薬に耐性を獲得した菌のことです。感染症にかかってもその治療として抗菌薬を使うことができれば、原因菌は死んでしまい、快方に向かいます。たとえ菌が特定の抗菌薬に耐性を獲得してしまった場合、他の抗菌薬を使って治療することが可能です。しかし、多剤耐性菌に感染してしまった場合、使える抗菌薬の種類は限定されてしまいますので、耐性でない菌に比べれば治療が難航してしまいます。

各臓器の感染症は、特定の病原体が感染症を引き起こしていることがほとんどです。たとえば、健康な人の膀胱炎は腸の常在菌である大腸菌が起因菌として多くあります。

感染臓器と起因菌をあらかじめ想定して抗菌薬治療をおこなうことが重要とされています。

当院では、アンチバイオグラム(antibiogram)を作成して抗菌薬適正使用につとめています。アンチバイオグラムとは、主要病原菌の抗菌薬に対する感性(抗菌薬が効く)あるいは耐性(抗菌薬が効かない)の割合を一覧表にしたもののことです。アンチバイオグラムの結果は、地域によって異なります。抗菌薬の感受性は、外来患者・入院患者・病原菌を検出する材料(喀痰・尿・血液)などで動きが異なるため、年に1回定期的に更新しています。

グラム陽性球菌antibiogram

抗菌薬感受性成績表

:80%以上

:50~79%

:49%以下

CLSI:M100-S22(CEZ:M100-S19)

M45-A2

菌名	株数	PCG	ABPC	CEZ	CTM	CFDN	FMOX	IPM	S/A	GM	ABK	EM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	ST	FOM	RPP	LZD
S. aureus	516	36%	36%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	70%	100%	73%	74%	100%	89%	100%	100%	100%	96%	99%	100%
S. aureus MRSA	230	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	44%	98%	19%	22%	72%	28%	100%	100%	100%	71%	99%	100%
S. epidermidis	111	32%	32%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	86%	-	74%	82%	100%	81%	100%	99%	95%	73%	98%	100%
S. epidermidis MRS	253	0%	0%	0%	0%	-	0%	0%	0%	39%	-	34%	51%	96%	28%	100%	98%	92%	59%	98%	100%
Ec. faecalis	227	100%	100%	-	-	-	-	100%	-	-	-	12%	-	22%	90%	100%	100%	-	-	54%	100%
Ec. faecium	72	10%	10%	-	-	-	-	-	-	-	-	0%	-	44%	4%	100%	100%	-	-	4%	100%

菌名	株数	ABPC	PCG	CTM	CTX	CTRX	CPFM	CZP	CDTR	MEPM	G/A	EM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	ST	RPP	CP
St. pneumoniae	414	-	100%	59%	99%	99%	95%	96%	91%	73%	93%	6%	7%	43%	22%	99%	100%	89%	100%	90%
St. pyogenes	35	100%	100%	-	100%	100%	100%	-	-	100%	-	60%	60%	80%	77%	100%	100%	-	-	100%
St. agalactiae	136	100%	100%	-	100%	100%	100%	-	-	100%	-	67%	67%	81%	52%	63%	100%	-	-	96%
S. dysgalactiae	22	100%	100%	-	100%	100%	100%	-	-	100%	-	91%	91%	95%	77%	100%	100%	-	-	100%

「結核」は昔の病気ではありません。

名古屋市は、2013年から結核罹患率が全国政令指定都市の中でワースト2位となっています。結核の約8割は肺が侵されます(肺結核)。初期の症状は力乏と似ていますが、長引く咳、痰、微熱などの症状が続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかくなどの症状もあります。当院でも月に1~2名の患者様を結核と診断し、専門医療機関へ紹介しています。気になる症状がおありの方は、早めに医療機関を受診しましょう。



NST栄養サポートチームにおける 薬剤師の役割について *

名鉄病院は、認知症サポートチームや感染対策チーム、緩和ケアサポートチームなど、チーム医療に盛んに取り組んでおり、薬剤師もチームの一員としてより良い医療が提供できるよう活動しています。

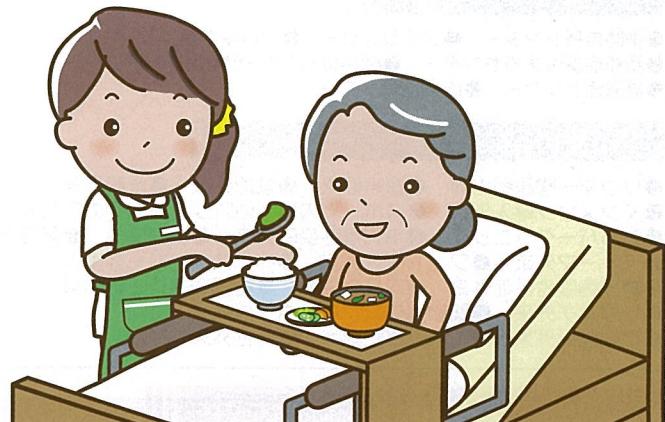
その中で、栄養サポートチーム(Nutrition Support Team ;以下NST)は、食事をしっかり食べられず栄養が十分に摂取できていない患者さまを対象に、栄養状態が良好に保たれることを目的として活動しています。患者さまの中には、腸の疾患や手術、嚥下障害、その他何らかの原因で食事が進まない方がたくさんおられます。NSTと病棟が協働することにより患者さまのQOLや治療効果が向上し、早期治癒、早期退院に繋がります。栄養管理を適切に行うために、臨床栄養に精通した医師、管理栄養士、看護師、臨床検査技師、薬剤師がそれぞれの専門的知識を持ち寄り、ガイドラインに従って必要エネルギー量や水分量の設定、経口栄養摂取の推進、経腸栄養・経静脈栄養の提案などを行います。

その中で、薬剤師である私たちは、食思不振の原因となる薬剤のチェックや、食欲を改善させる薬剤の提案、中心静脈栄養(Total Parenteral Nutrition ;以下TPN)メニューの提案、脂肪乳剤の適正使用の案内などを行っています。TPNメニューの設計において、腎機能障害のある患者さまには既製品のTPN製剤を投与することで腎機能をさらに悪化させる恐れがあるため、蛋白制限をした手作りのメニューを提案しています。心機能が低下している患者さまには水分負荷を軽減するために水分量を抑えつつ必要十分な栄養を補えるメニューを提案しています。

また、脂肪乳剤の適正使用に関連し、体重に応じた投与速度の設定やルートの接続方法の案内などを行っています。私たち「名鉄病院NST」は、患者さまのことを第一に考え、様々な病態に合わせ常に最適な栄養療法を提供できるようこれからも日々精進していきます。



イメージ



イメージ

RST呼吸ケアサポートチームが始動しました。

当院では、呼吸器内科医師を中心に、理学療法士、臨床工学技士、認定看護師、医療事務をメンバーとして呼吸ケアサポートチームの活動が始まりました。人工呼吸器を装着した患者さんの治療やリハビリテーション、呼吸器の設定、看護ケアについて実際にベッドサイドに訪問し早期に人工呼吸器から離脱できるよう援助させて頂いています。呼吸器疾患や人工呼吸器、酸素療法、栄養など呼吸ケアに必要である知識を習得するため、勉強会を適宜開催し入院患者さんに最適な呼吸ケアが提供できるように日々努めています。



院内で消防訓練を実施しました。

当院では、7月18日、病棟での火災発生を想定とした消防訓練を実施しました。

また、8月10日には、消火器・消火栓の実際の操作を体験する訓練を行いました。今後も、職員の防災意識を高め、定期的に防災活動に取り組んでいきます。



地元高校との交流活動。



名城大学附属高校3年生の方が、地域交流の授業の一環として、小児科病棟の患児さんを訪問しました。心身ともに元気になってもらうために、手作りのゴム自動車で楽しく遊ぶことにより交流しました。

普段は引っ込み思案な男の子も一緒にゴム自動車を走らせて遊ぶことができました。



名鉄病院

〒451-8511 名古屋市西区栄生 2-26-11
URL <http://www.meitetsu-hospital.jp/>
TEL 052-551-6121(代表)

診療科目

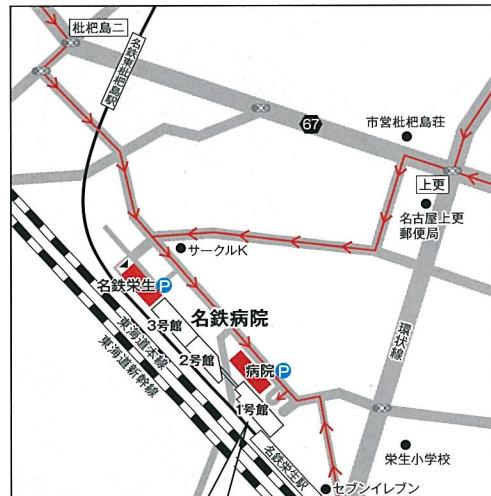
- 内科 ●循環器内科 ●消化器内科 ●神経内科 ●血液内科
- 内分泌・代謝内科 ●呼吸器内科 ●小児科 ●外科 ●整形外科
- 消化器外科 ●リハビリテーション科 ●脳神経外科 ●婦人科
- 皮膚科 ●泌尿器科 ●女性泌尿器科 ●耳鼻咽喉科 ●眼科
- 放射線科 ●腎臓内科 ●病理診断科 ●麻酔科

診療センター

- 予防接種センター ●健診センター ●ウロギニセセンター
- 認知症疾患医療センター ●関節鏡・スポーツ整形外科センター
- 糖尿病センター ●内視鏡センター

専門外来 ※予約制（一部を除く）

- リウマチ膠原病内科 ●音声外来 ●禁煙外来 ●乳腺外来
- インスリン導入外来 ●スポーツ内科（他院からの紹介の方のみ）
- シルバークリニック ●小児慢性疾患外来 ●乳児健診 ●肝臓外来
- ストーマ外来 ●フットケア外来 ●ベースメーカー外来
- 糖尿病眼合併症外来 ●ASO外来 ●糖尿病透析予防外来
- リウマチ外来 ●関節鏡外来 ●スポーツ外来
- 小児整形外来《月1回／不定期》 ●脊椎外来 ほか



3号館横の名鉄栄生駅とあわせ、こちらもご利用ください。
なお、ロータリーへの駐車は他の方への迷惑となりますのでご遠慮願います。
※3号館→1号館へはパノラマストリート（3階）で連絡しています。

1号館前に名鉄病院駐車場を整備しました。



病院連携・紹介状に関するお問い合わせは

地域医療連携室 TEL. 052-586-5755 FAX. 052-586-5756

本紙内容に関するお問い合わせは

事務部事務1課 TEL. 052-551-6299 FAX. 052-551-6711